

小学生高学年の部



おかげさまの水

石巻市立開北小学校 4年 藤坂 紬生

私には2人の祖父がいます。石巻市に住む「じいじ」と岩沼市に住む「おじいちゃん」です。社会科で水道について、学習をしていることを話すと、2人は仕事について教えてくれました。

じいじが住んでいる地区は簡い水道のため、3人で1か月交代で水道の管理をしています。台風で水道管が破れつした時に、工事会社の人と一緒に水道管を直したり、検査をする会社の人に水質検査をお願いしたりしています。毎朝、水道施設を見に行き、いじょうがないか確認し、かんたんな検査をしています。山の手入れをしたり、家の前の沢の草かりもしたりするそうです。その仕事はどうして水道管理の仕事とつながるのか気になりました。雨がふると、枯れた草が流されて、その草が橋にからまると、沢の水が流れるところがなくなり水があふれたり、害虫が発生したりしてしまうからです。さらに、山から水が流れてくるので、山もきれいにしておかなければいけないとじいじは話していました。

「水源の森を守っているんだよ。」

とお母さんは教えてくれました。東日本大震災の時には、3日で簡い水道を修理して、水が出なくて困っている地いきの人に水を分けたこともあるそうです。

おじいちゃんは国土交通省で河川管理の仕事をしていました。私の家から見える北上川の管理もしていたそうです。雨が少ない時期も多い時期にも同じように水が使えるように調整をする仕事なのだそうです。北上川の水は、私たちの生活のためだけでなく、工業用水や農業用水としても使われています。そのためにも川を守ることは大切な仕事で、おじいちゃんは堤防やダムや、山からくる土砂を貯めるための砂防ダムを作っていました。川の水が汚くなるとおいがくさくなったり、川にすむ生き物が病気になったりします。北上川を管理していたおじいちゃんは、川をきれいにして川の水が安全できれいに流れることを心がけていたそうです。人間だけではなく、魚や川にすむ生き物にとってもよい環境にしたいと思っていたことも教えてくれました。

いつも私と遊んでくれるじいじとおじいちゃんのにていところは、安全な水をみんなに届ける仕事をしていたということです。いつも当たり前のように水道を使っていますが、その水が届くまでには、いろいろな人の仕事のおかげであることを知りました。

私が使っている水は、地いきの水道企業団のみなさんが浄水場でろ過をしたり消毒したりして私たちが安心して飲むことができるようにしていることを社会科の授業で学びました。

「日本のよいところは、じゃ口をひねると安全でおいしい水を飲むことができること。外国だと安全な水は買わないといけない。」

と前に見たテレビ番組で、外国の人がインタビューで答えていました。気になって調べてみると、アフリカなどの発展途上国では細菌などが含まれている泥水を飲んで1日800人以上の人が亡くなっているそうです。その国には水道がありません。のどがかわいたら、泥水を飲むしかない暮らしを私は想うできません。でも、そういう現実があることを知って、とてもおどろきました。

小学校では、保けん室の先生が朝に私たちが使う水道の水の、確認をしているところを見たことがあります。今、学校ではコロナウイルスのえいきょうで手洗いをいつもより多くしています。水がきたなかったら、その水が原因で病気になることもあります。安全な水をみんなのところに届けるために、いろいろな人が関わっていることは、当たり前のことではないことを知りました。安全な水を世界中の人が使えるようになってほしいと私はこの作文を書きながら思いました。